

水素社会の実装に向けた総合的視点

—投資判断につながる技術実証と評価—

本研究会は水素社会の実現に向けて、技術・政策・社会の三位一体で議論を進めている。これまでのセミナーでは、水素の技術動向やGX（グリーントランスフォーメーション）における位置づけ、サプライチェーン全体の課題を俯瞰し技術的課題だけでなく、社会経済性、制度、インフラ整備の重要性が共有されてきた。

今後、社会実装の加速に向けては、水素社会をどのように評価し、意思決定につなげるかが重要になる。第4回セミナーでは、インフラにおける社会的受容性に加え、金融・投資判断（サステナブルファイナンス）の視点での議論を深め、水素社会の適切な評価に向けた枠組みに関して議論を深める。

**参加費
無料**

Date 2026年 8月31日 月
15:00 ~ 17:00（開場 14:30）

Place **TCU Shibuya PXU**
（東京都市大学 渋谷パクス）

東京都渋谷区
道玄坂1丁目10-7
五島育英会ビル8階
渋谷駅徒歩5分



山成 敏彰

東急株式会社
経営企画室ESG推進グループ
統括部長



ESG Rating

田野入 裕和

一般社団法人
水素バリューチェーン推進協議会
（JH2A）
担当部長



Portfolio balance

貝羽 健吾

リケンNPR株式会社 開発本部
水素・新エネ事業推進室



兵法 彩

東京都市大学
環境学部・環境経営システム学科
准教授



お申込み | お問い合わせ

右記QRコードあるいは下記URLから
必要事項をご記入の上、お申し込みく
ださい(定員:先着70名)。



<https://peatix.com/event/5103894>



オープニング

登壇者：

野城 智也（東京都市大学 学長）

インプットトーク

技術実証から社会実装へ

登壇者：

山成 敏彰（東急株式会社 経営企画室ESG推進グループ 統括部長）

田野入 裕和（一般社団法人 水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）担当部長）

貝羽 健吾（リケンNPR株式会社 開発本部 水素・新エネ事業推進室）

パネルディスカッション

投資判断につながる技術実証と評価に向けて

パネリスト：

山成 敏彰（東急株式会社 経営企画室ESG推進グループ 統括部長）

田野入 裕和（一般社団法人 水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）担当部長）

貝羽 健吾（リケンNPR株式会社 開発本部 水素・新エネ事業推進室）

モデレーター：

兵法 彩（東京都市大学 環境学部・環境経営システム学科 准教授）

※ プログラム終了後、登壇者等を交えた交流会（軽食あり）を実施いたします。是非ご参加ください。

登壇者・パネリスト・モデレーター 略歴

氏 名	略 歴
山成 敏彰	1991年4月、東京急行電鉄株式会社（現・東急株式会社）に入社。法務・不動産賃貸・病院医事／管理など多様な部門経験を積むとともに、連結子会社にて店舗運営などの事業部門や経営企画部門も経験し、東急(株)グループ内での幅広いキャリアを積む。 2018年4月より東急(株) 社長室 サステナビリティ推進部に配属。環境経営推進の基盤再構築を進めながらサステナビリティ経営の土台づくりに取り組む。2021年10月からは経営企画室に移り、環境ビジョンの策定をはじめサステナビリティ戦略と経営戦略の統合を推進。ESGを企業経営の中核に位置づける取り組みを進めている。
田野入 裕和	1994年三井海上火災保険（現三井住友海上火災保険）入社。リテール、大企業、広域マーケットで個人、地場、企業、大企業、金融機関、自治体等への保険提案、リスクマネジメントに29年間従事。大手風力発電事業者、太陽光発電事業者を担当し、環境保全、資源循環、低炭素化を推進する北九州環境ビジネス推進会の活動に参画。2023年4月よりグループ会社で保険代理店経営、M&Aに従事してから、2025年4月より水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）に出向。金融委員会の活動をメインに、水素事業における金融支援、リスクソリューション、水素ファンド、政策提言、広報、情報発信等を担当し、水素社会実現に向けて取り組んでいる。
貝羽 健吾	2014年（株）リケン（現リケンNPR(株)）入社。自動車エンジン用ピストンリングの表面処理工程の改善業務や新皮膜の開発、新製品開発部での減速機の開発と、ものづくりの最前線で技術開発に従事。2022年の水素事業立ち上げ時に現職となり、水素エンジン評価設備や新潟県柏崎市での水素ステーションの導入など、事業推進の基盤を整備した。現在は水素事業に関する技術調査・事業企画・産学官連携を担当し、水素エンジン商用車の普及に向けた取り組みを推進している。
兵法 彩	横浜国立大学大学院で博士（環境学）を取得後、東京大学プラチナ社会総括寄付講座を経て2023年4月より現職にてライフサイクル環境工学研究室を運営。ライフサイクル思考に基づく技術・システムの環境・社会経済性評価を通じて、科学的根拠に基づく意思決定支援に資する研究に取り組む。バイオマスを中心とする再生可能エネルギー技術やリチウムイオン電池の再資源化技術の評価などを実施。